



Vol,11 2014年 夏号

バードウォッチングへの誘い「ハヤブサ宇宙の彼方へ」
イヌワシってどんな鳥？「ペリット」
NEC学生バードソン2014



鳥海イヌワシみらい館
マスコットキャラクター
「ワッシーくん」



盛夏いかがお過ごしでしょうか。国指定最上川河口鳥獣保護区の鳥類調査を通じて、保護区を中心とした庄内西部地域（最上川河口付近、北は遊佐町から鶴岡市に至るまでの海岸林及び砂浜）の鳥類相の調査をしています。今回表紙を飾るチゴモズは、近年個体数が減少しているといわれ、環境省のレッドリスト（2012）では絶滅危惧ⅠA類となっています。山形県庄内地域は、以前から断片的な記録（聞き取り等目撃情報）は少なくないですが、体系的な調査や網羅的な記録の集約は行われていないのが現状です。そこで我々は多方面からの協力を得て、来年以降の本格的調査を見据えたチゴモズの繁殖状況調査を行っています。2014年7月現在、10数つがい、幼鳥を含総個体数100個体弱のチゴモズを確認しました。今後成果の報告ができればと思います。写真：チゴモズ成鳥雄、巣立ちしたチゴモズ幼鳥（右下円） 撮影・文：長船裕紀



★はやぶさ 宇宙の彼方へ！★

今年の大イベントといえば「サッカーワールドカップ」！そして、もう一つ忘れてはならないのは宇宙航空研究開発機構JAXAによる小惑星探査機「はやぶさ2」の打ち上げです。今回は「はやぶさ2」の打ち上げ成功を願ひまして、鳥類のハヤブサ特集でお送りします。



♂

コチョウゲンボウ

冬にやってくる渡り鳥です。♂の背面は全体的に青い色味です。



1999Jc3

今回ははやぶさ2が向かう地球近傍小惑星「1999Jc3」は前回の「イトカワ」とは違い、水や有機物が存在している可能性があるとのこと。サンプルリターンによって太陽系の起源、進化と生命の原材料物質の解明が期待できるそうです。惑星到着は4年後の2018年。地球への帰還は2020年を予定しているとのこと、はやぶさ2の活躍に期待しましょう！



チゴハヤブサ

チゴとは子供のこと。でもハヤブサの子供ではなく、子供のように小さいハヤブサという意味です。翼が長くおなかには太い縦斑が入ります。



ハヤブサ

猛禽類最速の飛行速度を誇るハヤブサは、その特徴からマシンの名前によく利用されます。今年宇宙に打ち上げられるはやぶさ2のほか、東北新幹線の名前もはやぶさです。



チョウゲンボウ

小型のハヤブサのなかまで、♂はグレーの頭部と尾羽が特徴的です。また尾羽の端には黒いラインが一本入ります。



シロハヤブサ

こちらめったに見ることができないハヤブサのなかま。淡色型、普通型、暗色型とありますが、淡色型の白いことといたら洗い立てのYシャツのごとし！一度はお会いしたい！



アカアシチョウゲンボウ

あまり見ることのない迷い鳥です。山形県では酒田市飛鳥で確認記録があります。♂は全体的にグレーですが足とクチバシの赤味が強いです。



イヌワシってどんなワシ? ⑩「ペリット」

ここ猛禽類保護センターには「鳥海イヌワシみらい館」という愛称がついていますが、イヌワシって何?と思う人や図鑑でしか見たことがない人もいます。そこでシリーズ10回目は「ペリット」について紹介します。

私たち人間は、お箸やフォークなどを使って食べられる部分と食べられない部分を細かくちぎりながら口に入れます。ではイヌワシ達猛禽類とはいいますと、「ある程度」分別をすれば、毛がついていようが、細かい羽が残っていようがそのまま飲み込んでしまいます。飲み込んだエサは一旦「そ囊」と呼ばれるのどのあたりにある器官に蓄えられます。そして少しずつ胃の中に運んで消化していくのです。

イヌワシ達肉食の猛禽類は強酸性の胃液を持っていて、あらゆる肉片を消化できるのですが、獲物の部位でどうしても消化できない部分があります。それが解体時に排除しきれずに残ってしまった骨や毛、昆虫などの持つ外骨格などです。これらは胃の中でボール状にまとめられて「ペリット」というかたまりになり、口から体外に排出されます。

我々が普段の生活でペリットに遭遇することは少ないかもしれませんが、森の中を散策したりすると偶然に拾ったり、よく猛禽類が止まっている電柱などの下を探してみると見つかったりすることがあります。実はこのペリットは猛禽類たちの食性を知る重要な手掛かりになります。これらペリットを分解し食性を調査することができるからです。

イヌワシの排出するペリットはウサギの体毛がほとんどで、ヤマドリ羽が入っていたりします。ここ鳥海イヌワシみらい館にあるイヌワシのペリットはほとんどがノウサギの体毛からできていて、ノウサギを主食にしているんだと知ることができます。ペリットからある程度エサの種類を探ることが可能ですが、どれだけの分量を食べたかを推測することは難しいですが、地域や季節によってエサの割合や種類が異なってきますので、これらの違いを見てみるのも面白いかもしれません。

これから始まる夏休みですが、身近な猛禽類のペリットを分解して、その猛禽類が何を食べているのかを調べてみるのも自由研究には良いテーマになるかもしれません。



「イヌワシのペリット」
ほとんどがウサギの体毛によるもの
大きさは約7cmで、重さは約9g

参考文献：「図鑑日本のワシタカ類」（文一総合出版）山崎亨監訳「猛禽類学」（文英堂出版）

環境省 鳥海南麓自然保護官事務所



保護官着任のご挨拶

内藤 小容子 自然保護官

はじめまして。今年の5月に鳥海南麓自然保護官事務所に着任いたしました内藤と申します。この鳥海イヌワシみらい館通信をお読みいただき、また日頃より自然環境行政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

鳥海南麓自然保護官事務所は、環境省東北地方環境事務所の出先事務所で猛禽類保護センター・鳥海イヌワシみらい館に併設されています。当館の管理運営に関わることで以外にも、イヌワシをはじめとする希少猛禽類の保護に関することや、国指定最上川河口鳥獣保護区の管理などの業務を行っています。

少し堅苦しい出だしになってしまいましたので、個人的なことで恐縮ですが、ここで簡単に自己紹介をさせていただきます。私は神奈川県海の近くで生まれ育ちました。紆余曲折を経て、最終的には北海道で森林生態系に関することを学び、環境省のレンジャー（自然保護官）に。レンジャーという少し厳めしい響きがあるかもしれませんが、変身して悪者をやっつけるわけではありません。常に丸腰です。野生生物の保護に関することや、国立公園の管理に関することなどに取り組む、平たく言えば自然を守るお仕事です。自然と社会との間をつなぐ、また専門家と一般の方との間をつなぐ、そんな架け橋になりたいと願いながら、日々奮闘しています。

前任地は岡山市にある中国四国地方環境事務所で、主に瀬戸内海国立公園に関する業務を行っていました。瀬戸内海は、穏やかな内海に浮かぶたくさんの島々に、それぞれのゆったりとした時間が流れている、そんな場所です。

そしてこの春、酒田市にある猛禽類保護センター・鳥海イヌワシみらい館へやってきました。天気の良い日には通勤途中で鳥海山の大パノラマが広がり、とても清々しい気持ちになります。雪渓が日に日に小さくなるにつれ、緑が深くなり、田にカエルの大合唱が響き、ホタルの光が舞う・・・そして、大空を旋回するイヌワシ。この地に息づく多様な生き物、豊かな自然が見せるすばらしい表情に日々感動しながら、あっという間に2か月が過ぎてしまいました。まだまだ未熟者で、力不足を痛感する毎日ですが、ここで出会う方々の温かさに励まされています。今ではすっかり「～だの」という庄内弁のファンです。

とはいえ、全国を回るレンジャーは、いくら温かく迎えていただいても、その土地その土地にとっては「よそ者」かもしれません。しかし、地域に新しい風を吹き込むのは、①よそ者、②若者、③バカ者とよく言われます。②はそろそろ厳しくなってきましたが、①と③の属性を存分に発揮して、客観的なバランス感覚を大切にしつつ、何かを興したいと野心を抱いております。みなさまのお力をお貸しいただければ幸いです。

ぜひお気軽に鳥海イヌワシみらい館にお立ち寄りください。一人でも多くの方にお目にかかれるのを楽しみにしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



長船が行く

庄内鳥海紀行 ～海岸から鳥海南麓～
NEC 学生バードソン 社会人部門での参加



2014年6月8日、猛禽類保護センター鳥海イヌワシみらい館職員で「NEC 学生バードソン」の競技（バードウォッチング）に参戦しました。この「学生バードソン」とは、バードウォッチングをしながら、一定期間中に募金活動を行うチャリティーイベントです。3人1組でチームを作り、“競技日1日で確認された野鳥の種数”、“募金額”、“募金者数”の3点で競い合います。競技である1日バードウォッチングは参加者がそれぞれのフィールドで行い、自己申告にて競技が進められます。競技名に学生とありますが、参加部門には学生部門と社会人部門があり、我々は社会人部門に参加しました。

結果ですが、部門での確認種数1位を目指したのですが、大差をつけられての2位（速報結果時）となってしまいました。想定では圧勝の1位だったのですが… 敗因としては同環境下に固執し、海岸域及び平野部で時間を浪費しすぎたこと、想定していた確認すべき種（イヌワシ、ハチクマ、オオタカ、ハイタカ、サシバ、ハヤブサ、アマツバメ、ハリオアマツバメ、ジュウイチ、アオゲラ、アカゲラ、バン、カンムリカイツブリ、アオバト、オナガ、カケスなど）を取りこぼし過ぎたこと、鳥運に見放されていたこと、我々の能力が低かったこと…など

<ステージ1>



アカガシラサギ

酒田市の赤川下流をスタートし、川沿いのクロマツ林を進みながら砂浜海岸に向かいました。河川敷では無数のオオヨシキリが囁り、その間スズメやカワラヒワなどの留鳥、カッコウ、ホトトギス、コアジサシなどの夏鳥を見ました。ミサゴが頻りに巣材を運ぶ様子も観察することができました。ここでの収穫は7羽でイスカがクロマツ林から飛び出し目の前を通過していったことと、参加者が皆初めて目にしたアカガシラサギではないでしょうか。ミサゴを観察していたら、下流方向から何やら見覚えのない色味をしたサギのような鳥が視野に入り、ヨシの中に降りました。一瞬の

出来事で種を確認できず悔しがっていた時、突然目の前を通過していきました。後に山形新聞社発行「やまがた野鳥図鑑」（2011）で確認したところ、飛鳥で時折観察されているようです。またこの図鑑の執筆者であり野鳥の会山形県支部長の築川氏に聞いたところ、山形県内の飛鳥以外でも何例か記録があるとのことでした。

川沿いを下り、砂浜海岸に進み白砂を眺めました。シギ・チドリを探すも大物はいない。遠くにチドリが見えるが、遠すぎてコチドリかシロチドリかさえわからなかったので、後に向かう予定の埋め立て地で探すことにして海辺を後にしました。ここでの収穫はオオハムが見られたことでしょうか。



イスカ



庄内海岸にて観察

<ステージ2>

続いては、鶴岡市大山にある下池と上池を訪れました。特に冬には多くのガンカモ類が飛来し、オオワシやオジロワシも狩り場やねぐらとしても利用しています。また国指定上池下池鳥獣保護区（特別保護地区）やラムサール条約指定湿地となっています。さらに重要湿地500（※1）やIBA（※2）にも選定されており、野鳥には重要な生息環境として評価されています。ここでは散策路を歩きながらカラ類を観察し、水辺ではセキレイ類、湖面ではカモ類、カイツブリなどを見ることができました。

<ステージ3>

北上しながら庄内の水田地帯を探訪。途中、埋め立てを免れた道沿いの小さな池でヨシゴイを見ました。その後、先ほどよりも上流の赤川にさしかかり、その脇の水田でゴイスギや越冬したコハクチョウが見られました。冬鳥がカウントできたことは大きな収穫だったといえます。



コハクチョウを観察した水田



コハクチョウ

<ステージ4>

さらに北上し、最上川下流に到達しました。最上川下流は河口域及びステージ1で紹介した赤川河口付近や、それに至る海岸域（クロマツ防砂林を含む）は上池・下池同様に、国指定鳥獣保護区に指定されており（ただし特別保護地区を含まない）、重要湿地500、IBAにも選定されています。下流域はハクチョウの飛来地として有名で、日本の残したい音風景100選に、海岸域は白砂青松100選にもなっています。ここでは河川敷でコチョウゲンボウ、コヨシキリ、ホオアカなどが見られました。そして酒田港を経て、港の北に位置する埋め立て地の干潟などを巡りました。数週間前には多くのシギ・チドリが見られたのですが、渡りのピークを過ぎていたため閑散としていました。それでもシロチドリやコチドリ、メダイチドリなどが見られました。そろそろ山地へ向かわなければと思いながらすでに14時が回り、焦りを隠せない筆者たち。この時点で想定していた種の多くを取りこぼし、惜しみつつ干潟を後にしました。

<ステージ5>

山地はまずは出羽丘陵の里地です。最初に訪れた小さな沢沿いの山林で、狙い通りにサンコウチョウが確認できました。姿は見られず、鳴き声のみを確認し地点を移動しました。別の地点を転々としアカショウビンやキビタキの鳴き声を堪能。さらに以前からモニタリングしているクマタカのポイントでは、到着して数秒後にクマタカが舞いました。遠かったですが、全員が興奮していたかと思います。そして鳥海山の南麓へと向かいました。

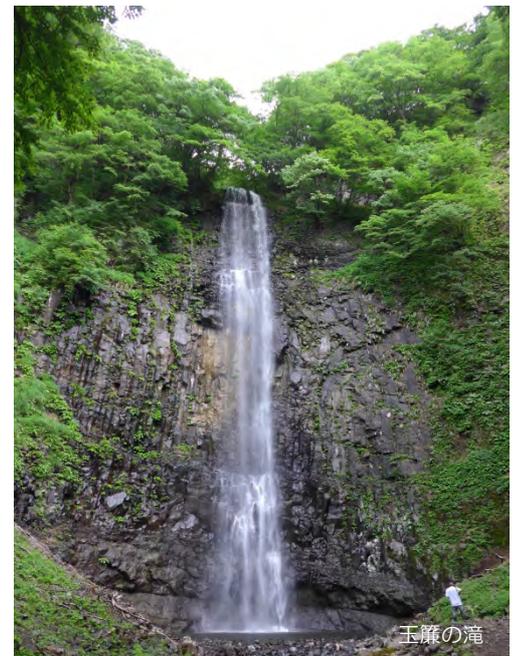


クマタカ

<ステージ6>

まずは観光地としても有名な升田地区にある玉簾の滝まで散策しました。雨が降り始め、すでに薄暗くなってきていましたが、ここではトチやミズナラに止まって囀るオオルリやホオノキの樹上で囀るノジコが見られました。その後イヌワシの止まりを必死で探し、ハチクマやサシバの飛翔を期待するもますます天気が悪くなる一方。急いで林道に侵入し、溪流のシノリガモを探すも見つからず… 最後はカワガラスとクロツグミで時間切れとなりました。

今回コースとした地域では平野部～丘陵地ではオオタカをはじめノスリやトビ、ミサゴ、チョウゲンボウなどが、山地帯ではサシバやクマタカ、イヌワシなど猛禽類が繁殖しています。河川敷や海辺では、渡りの時期や冬期にはチュウヒやオジロワシ、オオワシなどの猛禽類、シギ類やチドリ類を観察することができます。特にスワンパークと呼ばれる最上川の河口付近には多くのガンカモ類が飛来し、野鳥のみならず地域住民にとっても憩いの場として親しまれています。



玉簾の滝

ここには四季を通じて、多くの野鳥との出会いがあります。野生動物が集う自然環境の大切さや価値を、少しでも多くの方に感じてもらいたいと思いました。幾多の囀りよ、永遠に。

(※1) 環境省が湿地保全施策の基礎資料を得るために、湿原、河川、湖沼、干潟、藻場、マングローブ林、サンゴ礁など、生物多様性保全の観点から重要な湿地を500ヶ所選定しています。

(※2) IBA (Important Bird Areas) とは重要野鳥生息地プログラムとして国際的な鳥類保護組織であるBirdLife Internationalが、世界100ヶ国以上の加盟団体と共同実施している事業です。「鳥類を指標した重要な自然環境」を、世界共通の基準 (IBA 基準) によって選定し、個々の生息地はもちろんのこと、それらすべての生息地をネットワークとして世界全体で保全しているというプログラムです。(引用 : <http://www.wbsi.org/nature/hogo/others/iba/about/index.html>)

イベント開催報告

ゴールデンウィーク体験企画

○「お鷹ぼっぼの絵付け」を開催しました！

5月3日～6日「お鷹ぼっぼの絵付け」を開催しました。「お鷹ぼっぼ」は山形県米沢市に伝わる民芸品で、10代目米沢藩主上杉鷹山が農閑期の副業に推奨したものです。ちなみに「ぼっぼ」とはアイヌ語で「おもちゃ」という意味で「お鷹ぼっぼ」は「鷹のおもちゃ」ということなのですが、鷹山が自分の名前にもしたように縁起物として各家庭に飾ることを勧めたのだとか。イベントでは、小さな子供たちから、大人まで体験してくれました。猛禽類の体の特徴を知ってほしいという狙いもありましたが、全身緑色にしたり、キャラクター化したりする子もいてなかなか個性が表れてよかったのではないかと思います。県内外問わず参加者のみなさんには楽しんでいただけたようです。



○新宿御苑みどりフェスタ2014に参加しました！

4月29日（火・祝）は、毎年恒例の新宿御苑みどりフェスタ2014に参加させていただきました。みどりフェスタは自然に親しむとともに、その恩恵に感謝することを目的とするイベントで、今年は全国各地から約50団体が出展しました。鳥海イヌワシみらい館のブースタイトルは「イヌワシ恋物語」。イヌワシの生態を恋愛からひも解いてみようという、ちょっとひねりのある展示内容です。

昨年人気だったイヌワシの視力体験コーナーは1台増設したことで、ゆとりのある体験コーナーになり、待ち時間の大幅な減少になりました。ブースの側面には猛禽類の写真が展示され、その迫りに来場者の皆さんも見入っていました。

ワッシーくんのぬりえコーナーは相変わらずの盛況ぶりで、何度も来て体験してってくれる子供たちもいました。着ぐるみのワッシーくんも相変わらず子供たちに抱き着かれたり、記念撮影を求められるなどこちらも嬉しい悲鳴が出ました。当日の新宿御苑には1万人を超える来場者があり、鳥海イヌワシみらい館のブースにも1000名以上の方が訪れてくれました。見に来てくださった皆さんありがとうございました。



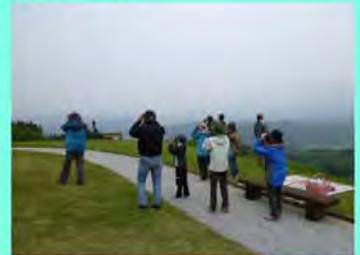
○「春の渡りを見よう！」を開催しました！

5月25日（日）に「春の渡りを見よう！」を開催しました。酒田市の眺海の森を通過する猛禽類を見ようというものです。講師はNPO法人 猛禽類保護ネットワークより伊藤智樹さんでした。

午前中はほぼ全くと言って良いほどタカの渡りを見ることはできず、トビとノスリのほか、すでに定着したと思われるサシバが1度だけ姿を見せてくれるだけでしたが、正午を少し過ぎたところに観察会場をチゴハヤブサが通過していったことをかわきりにして、観察会場の庄内平野側方面を次から次へとハチクマが通過していきました。最後に7羽のハチクマが一斉にタカ柱を作りクライマックスを飾ってくれました。春の渡りは東北地方ではあまり目立たず、分散して渡っていくのですが、結局カウントできただけでも43羽という予想以上に多い結果となりました。参加者からは渡りを実感できたとの声をいただきました。講師の伊藤智樹さん、参加してくださった皆さん、ありがとうございました。

<観察できた鳥類>

ハチクマ、サシバ、ハイタカ、チゴハヤブサ、トビ、ノスリ、ミサゴ、ハリオアマツバメ、ハシボソガラス、ホオジロ、カケス、ウグイス、ホトトギス、メジロ、アオサギ、ヒヨドリ、ツバメ、スズメ、ヤマガラ、シジュウカラ、イカル、カワラヒワ、アオゲラ、キビタキ



ハチクマのタカ柱

○「ワシ・タカ入門」を開催しました！

6月15日（日）「ワシタカ入門」を開催しました。講師は希少動植物調査会 緑の玉手箱会長の齋藤利孝さんでした。観察会場は鳥海山のふもとにある酒田市八森自然公園で行いました。

観察開始早々に、鉄塔にハヤブサが止まってくれました。いきなりの希少猛禽類の出現にちょっと戸惑いましたが、皆でハヤブサを見ることができました。その後少しすると、今度は八森自然公園の主、オオタカが姿を現しました。目的の鳥を見ることができたので、欲張って会場を野球場に移し、トビ、ノスリ、チゴハヤブサ、サシバなどの猛禽類も見ることができました。観察会場の八森自然公園は齋藤利孝さんが植生管理を行っており、その豊かな環境をオオタカやハヤブサなどの希少な猛禽類たちが利用して暮らしているということを理解していただくことができました。講師の齋藤利孝さん、参加してくださった皆さん、ありがとうございました。

<観察できた鳥>

トビ、ノスリ、オオタカ、ハヤブサ、チゴハヤブサ、ハイタカ、サシバ、ハチクマ、カケス、ヤマガラ、サンコウチョウ、ハシボソガラス、ウグイス、ホオジロ、ウミネコ、アオサギ、ヒヨドリ、キジバト、ツバメ、ヤブサメ、コゲラ、メジロ、サンショウクイ、シジュウカラ、アオゲラ、イカル、イワツバメ、カワラヒワ、コガラ



八森自然公園のオオタカ

鳥海イヌワシみらい館 (猛禽類保護センター)

夏休み体験プログラム

7月21日(月)～8月17日(日)

9:00～16:30



「^{みつ}蜜ろうそくをつくろう！」

7月21日(月)～27日(日)

参加費：400円

ねんどのように好きな形のろうそくを作ります。



「鳥海高原を散策しよう！」

7月28日(月)～8月3日(日)

9:00受付開始 9:30出発

参加費：200円

事前に申込み必要：7月18日(金)まで



鳥海イヌワシみらい館～家族旅行村まで散策します。
※雨天時と午後からは「エコバッグをつくろう！」



「エコバッグをつくろう！」

8月4日(月)～8月10日(日)

参加費：200円

葉っぱ模様のすてきなエコバッグを作りましょう！



「^{たか}お鷹ぽっぽの絵付け」

8月11日(月)～8月17日(日)

参加費：500円

伝統工芸品に絵付けすることでワシタカたちの体の特徴を知りましょう！



〇ワッシーくんのぬりえコーナーも用意していますので、小さいお子様も一緒にご来場ください！

ワシ・タカスクール

ワシタカの体の不思議を体感しよう！ゲームを楽しみながらワシタカについて学びます。

日時 平成26年7月20日(日) 9:00～15:00
集合場所 鳥海イヌワシみらい館(猛禽類保護センター)
募集人数 親子10組20名程度
持ち物 双眼鏡(貸出可)、昼食、飲み物、軍手
服装 長そで、長ズボン、汚れてもよいくつ、ぼうし
参加費 一人300円
※申し込み締め切り 7月17日(木) TEL 0234-64-4681



お問い合わせは[鳥海イヌワシみらい館]TEL 0234-64-4681 まで

イベント情報コーナー

○夏休み特別企画展示

「はやぶさ宇宙の彼方へ」

今年、打ち上げ予定の小惑星探査機「はやぶさ2」の成功を祈念して、2010年に地球に帰還して話題となった「小惑星探査機はやぶさ1/5模型」の展示とともに、猛禽類ハヤブサの特別企画展示を開催します。

期 日 平成26年7月19日（土）～8月31日（日）
 時 間 9：00～16：30
 会 場 鳥海イヌワシみらい館展示室
 入館料 無料

8月23日（土）は、勝手に「ハヤブサの日」
 ○鳥海イヌワシみらい館×コスモス童夢共同企画！
 「ハヤブサと夏の大三角ワシ座を観察しよう！」

時 間 15：00～21：00
 場 所 さみだれ大堰～コスモス童夢
 参加費 一人1,300円（保険代、資料代、入館料、夕食）
 （夜から参加の人はコスモス童夢の入館料のみ頂戴します。）

お問合せ・申し込み 鳥海イヌワシみらい館
 TEL 0234-64-4681
 E-mail moukin@raptor-c.com

※参加者募集は8月1日（金）より開始します。

鳥海イヌワシみらい館（猛禽類保護センター）夏休み特別企画展示
 小惑星探査機「はやぶさ2」打ち上げ成功祈念
はやぶさ宇宙の彼方へ
 話題になった小惑星探査機「はやぶさ」の1/5模型がやってくる！

期 日 平成26年7月19日（土）～8月31日（日）
 展示会場 鳥海イヌワシみらい館展示室
 開館時間 9：00～16：30
 入館料 無料
 主催 猛禽類保護センター活用協議会
 協力 宇宙航空研究開発機構（JAXA）
 鳥海イヌワシみらい館（猛禽類保護センター）
 〒999-8207 山形県酒田市草津湯ノ台7-1
 TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683

8月23日（土）は勝手に「ハヤブサの日」
 ○鳥海イヌワシみらい館×コスモス童夢共同企画！
 「ハヤブサと夏の大三角ワシ座を観察しよう！」
 時 間 15：00～21：00
 場 所 さみだれ大堰～コスモス童夢
 定 員 ハヤブサ観察会 先着20名 天体観測 先着40名
 参 加 費 一人1,300円（保険代、資料代、入館料、夕食）
 （夜のみの参加の方はコスモス童夢の入館料のみ頂戴します。）
 お申し込み 鳥海イヌワシみらい館（猛禽類保護センター）
 TEL 0234-64-4681

○アクティブレンジャー写真展

東北アクティブレンジャー写真展
東北の自然～風景～

2014年7月1日（土）～7月31日（木）
 猛禽類保護センター 9：00～16：30
 2014年8月1日（金）～8月31日（日）
 さみだれ大堰～コスモス童夢 15：00～21：00

東北地方の各地で活躍しているアクティブレンジャーによる、各地の自然の風景や生き物をテーマにした写真展です。

期間①：7月1日～7月31日 テーマ「風景」
 期間②：8月1日～8月31日 テーマ「いきもの」
 時 間：9：00～16：30

会 場：鳥海イヌワシみらい館ギャラリー
 入館料：無料

お問合せ 環境省羽黒保護官事務所 TEL 0235-62-4777

東北アクティブレンジャー写真展
東北の自然～いきもの～

2014年7月1日（土）～7月31日（木）
 猛禽類保護センター 9：00～16：30
 2014年8月1日（金）～8月31日（日）
 さみだれ大堰～コスモス童夢 15：00～21：00

○ワシタカ観察会「秋の渡りを見よう！」

冬を前に、越冬地に帰っていくワシ・タカたちを観察します。

期 日 平成26年9月21日（日）
 場 所 眺海の森（酒田市土淵字甚治郎向20-1）
 参加費 一人300円
 講 師 築川堅治氏（日本野鳥の会 山形支部長）

※参加者募集は8月15日（金）より開始します。

お問合せ・お申込み 鳥海イヌワシみらい館 TEL 0234-64-4681 E-mail moukin@raptor-c.com



Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

編集後記 & 施設情報

鳥海イヌワシみらい館

7月からの開館情報

お休み・・・7月、8月は無休、
 9月は臨時休館日があります

開館時間・・・9：00～16：30

入館料・・・無料

臨時休館日はホームページにてお知らせします。

ホームページアドレス：<http://www.raptor-c.com>
 〒999-8207

山形県酒田市草津湯ノ台71-1

TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683

E-mail: moukin@raptor-c.com



普及啓発担当
 あっちゃんになってきたの～、はやぶさ成功してほしいの～。
 （本）

事務局
 酒田市の夏は、海も山も鳥海イヌワシみらい館も楽しめませう。
 （村）

自然保護専門員
 趣味は切身収集とマンホール。最近はやぶさ以外にチゴモズに熱中。脳内でチゴチゴと奏でています。
 （長）

鳥海南麓自然保護官
 趣味は音楽で、オーボエやピアノ演奏をします。が、最近はやぶさが楽しいです！よろしく願っています！
 （内）